

Julia 1.0 のリリースに寄せて

『Julia データサイエンス—Julia を使って自分でゼロから作るデータサイエンス世界の探索』

訳者 石井 一夫

「なぜ僕らは Julia を作ったか (翻訳)」

<https://marui.hatenablog.com/entry/20120221/1329823079>

Julia 1.0 が 2018 年 8 月にリリースされました。データサイエンスには、フリーでは R や Python、商用では Matlab や Mathematica など色々なプログラミング言語がひしめき合っています。それぞれの言語に長所や短所があり、現状どれか一つだけをマスターすればよいと言える状況ではなく、複数の言語を用途に応じて使い分ける必要があります。近年は、Python が比較的易しく、特に人工知能の分野で色々なプラットフォームが使えるために注目されています。しかし、ますます規模が大きくなるビッグデータ解析に対しては、これでも十分とは言いがたい場面にはしばしばです。もっとも、そのレベルに達したデータサイエンティストは、10 を超える言語を日常的に使いこなすということは普通にあります。そんなデータサイエンティストが、何らかの言語をベースにしたライブラリではなく、自分たちの可愛がっているいろいろな言語のいいところ取りをし、長所をてんこ盛りにした新たなユートピアを作りたいと考えました。これが Julia です。MIT のハッカーたちによって、新たに産声を上げたてんこ盛りの GAL はとてもグラマーで、セクシーでワクワクします。ここに新たなレジェンドと新たな神話が生まれました。

データサイエンスと我々の未来に祝福したいと思います。

●Julia でできること

データサイエンスにおける基本的なデータ分析です。繊細なところに手が届かない部分は、自らの試行錯誤やコーディングで補うという姿勢がどうしても必要です。これはどうしても本書を読み進める際に必要な姿勢です。

●書籍『Julia データサイエンス』購入者が Julia1.0 を利用する際の注意点

パッケージ管理や、データ型の処理を含む色々な部分が微妙に変わっています。基本はチュートリアルドキュメントのコードをかたっぱしから試して慣れることです。そのあと書籍のコードを試してみることです。微妙に異なるところの何かをつかむコツがわかるのではと思います。

The Julia Language

<https://docs.julialang.org/en/v1/>